

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2023年5月19日(19.05.2023)



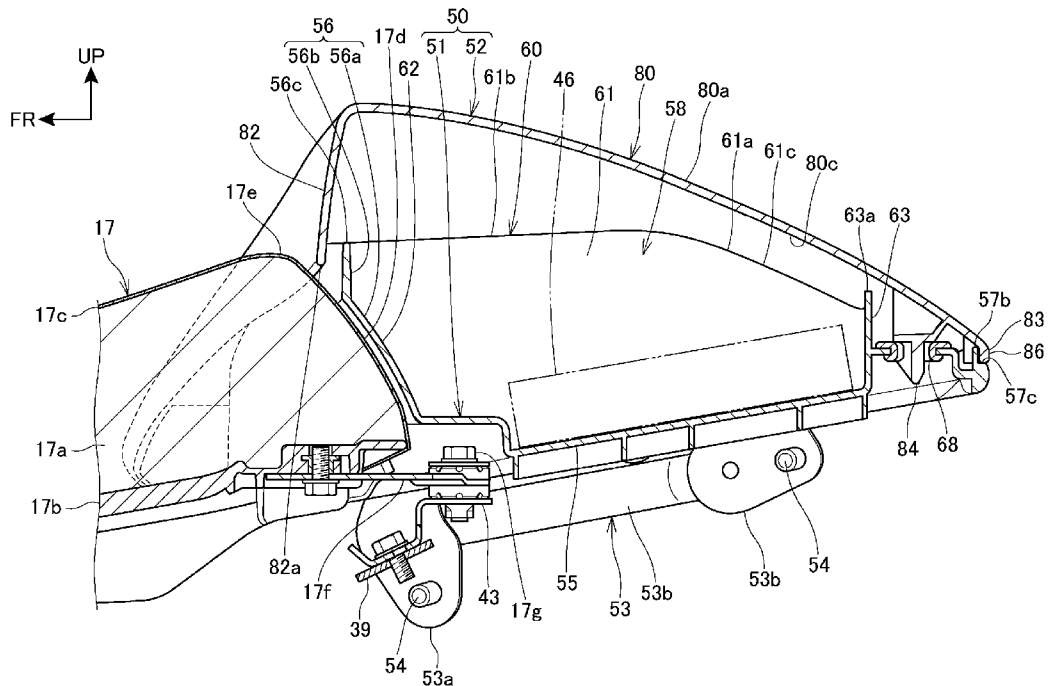
(10) 国際公開番号

WO 2023/084875 A1

- (51) 国際特許分類:
B62J 9/10 (2020.01) *B62J 23/00* (2006.01)
B62J 17/00 (2020.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2022/032619
- (22) 国際出願日: 2022年8月30日(30.08.2022)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2021-182443 2021年11月9日(09.11.2021) JP
- (71) 出願人: 本田技研工業株式会社 (**HONDA MOTOR CO., LTD.**) [JP/JP]; 〒1078556 東京都港区南青山二丁目1番1号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 井口 貴正 (**IGUCHI Takamasa**); 〒1078556 東京都港区南青山二丁目1番1号 本田技研工業株式会社内 Tokyo (JP). 立石 康 (**TATEISHI Yasushi**); 〒3510193 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内 Saitama (JP).
- (74) 代理人: 弁理士法人クシブチ国際特許事務所 (**KUSHIBUCHI & ASSOCIATES**); 〒3308669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目7番地5 ソニックシティビル18階 Saitama (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO,

(54) Title: STORAGE PART STRUCTURE

(54) 発明の名称: 収納部構造



(57) **Abstract:** Articles are satisfactorily held in a storage part inside a seat cowl, and the articles are easily stored in the storage part. A storage part structure comprises a storage part (58) provided inside a seat cowl (50). The seat cowl (50) is tilted rearward and downward in a vehicle side view. The seat cowl (50) includes a base part (51) attached to a vehicle body (53), and a cowl part (52) for covering the base part (51) from above. The base part (51) includes a bottom wall (55) and a rib part (60) that extends upward from the bottom wall (55) and defines the storage part (58). The rib part (60) is

DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

provided with a pair of left and right side walls (61) that extend in the vehicle longitudinal direction and define the storage part (58) in the left-right direction. An upper surface (80) of the cowl part (52) is formed at a rearward and downward tilt in a vehicle side view. At least part of an upper edge (61a) of the side walls (61) is formed at a rearward and downward tilt along an inner surface (80c) of the upper surface (80) in a vehicle side view.

(57) 要約: シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持し、且つ、収納部に物品を収納し易くする。収納部構造は、シートカウル(50)の内側に設けられる収納部(58)を備え、車両側面視でシートカウル(50)が後下がり傾斜し、シートカウル(50)は、車体(53)に取り付けられるベース部(51)と、ベース部(51)を上方から覆うカウル部(52)とを備え、ベース部(51)は、底壁(55)と、底壁(55)から上方に延出して収納部(58)を区画するリブ部(60)とを備え、リブ部(60)は、車両前後方向に延びて収納部(58)を左右方向に区画する左右一対の側壁(61)を備え、車両側面視で、カウル部(52)の上面(80)は、後下がり形成され、車両側面視で、側壁(61)の上縁(61a)の少なくとも一部は、上面(80)の内面(80c)に沿って後下がり形成される。

明 細 書

発明の名称： 収納部構造

技術分野

[0001] 本発明は、収納部構造に関する。

背景技術

[0002] 従来、鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視でシートカウルが後下がり傾斜している収納部構造が知られている（例えば、特許文献1参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：実公平03-053983号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] ところで、シートカウルの内側の収納部に物品を収納する場合、物品を良好に保持することが望まれる。また、車両側面視でシートカウルが後下がり傾斜していると、収納部に収納可能な積載量が分かり難く、収納部に物品を収納し難くなる。

本発明は、上述した事情に鑑みてなされたものであり、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持し、且つ、収納部に物品を収納し易くすることを目的とする。

課題を解決するための手段

[0005] この明細書には、2021年11月9日出願された日本国特許出願・特願2021-182443の全ての内容が含まれる。

収納部構造は、鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、前記シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視で前記シートカウルが後下がり傾斜している収納部構造において、前記

シートカウルは、車体に取り付けられるベース部と、前記ベース部を上方から覆うカウル部とを備え、前記ベース部は、底壁と、前記底壁から上方に延出して前記収納部を区画するリブ部とを備え、前記リブ部は、車両前後方向に延びて前記収納部を左右方向に区画する左右一对の側壁を少なくとも備え、車両側面視で、前記カウル部の上面は、後下がりに形成され、車両側面視で、前記側壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の内面に沿って後下がりに形成されていることを特徴とする。

発明の効果

[0006] シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持し、且つ、収納部に物品を収納し易くできる。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]図1は、本発明の実施の形態に係る鞍乗り型車両の側面図である。

[図2]図2は、車体フレームの斜視図である。

[図3]図3は、シートの後部及びシートカウルの左側面図である。

[図4]図4は、シート及びシートカウルを上方から見た平面図である。

[図5]図5は、シートカウルの分解斜視図である。

[図6]図6は、図4のVⅠ－VⅠ断面図である。

[図7]図7は、図4のVⅠⅠ－VⅠⅠ断面図である。

[図8]図8は、カウル部を不図示にした状態でシート及びベース部を上方から見た平面図である。

[図9]図9は、図6においてシート後面に対しシートカウルが近接する部分を拡大した断面図である。

発明を実施するための形態

[0008] 以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。なお、説明中、前後左右および上下といった方向の記載は、特に記載がなければ車体に対する方向と同一とする。また、各図に示す符号F Rは車体前方を示し、符号U Pは車体上方を示し、符号L Hは車体左方を示す。

[0009] [実施の形態]

図１は、本発明の実施の形態に係る鞍乗り型車両１０の側面図である。

鞍乗り型車両１０は、車体フレーム１１と、車体フレーム１１に支持されるパワーユニット１２と、前輪１３を操舵自在に支持するフロントフォーク１４と、後輪１５を支持するスイングアーム１６と、乗員用のシート１７とを備える車両である。

鞍乗り型車両１０は、乗員がシート１７に跨るようにして着座する車両である。シート１７は、車体フレーム１１の後部の上方に設けられる。

[0010] 車体フレーム１１は、車体フレーム１１の前端部に設けられるヘッドパイプ１８と、ヘッドパイプ１８の後方に位置するフロントフレーム１９と、フロントフレーム１９の後方に位置するリアフレーム２０とを備える。フロントフレーム１９の前端部は、ヘッドパイプ１８に接続される。

シート１７は、リアフレーム２０に支持される。

[0011] フロントフォーク１４は、ヘッドパイプ１８によって左右に操舵自在に支持される。前輪１３は、フロントフォーク１４の下端部に設けられる車軸１３aに支持される。乗員が把持する操舵用のハンドル２１は、フロントフォーク１４の上端部に取り付けられる。

[0012] スイングアーム１６は、車体フレーム１１に支持されるピボット軸２２に支持される。ピボット軸２２は、車幅方向に水平に延びる軸である。スイングアーム１６の前端部には、ピボット軸２２が挿通される。スイングアーム１６は、ピボット軸２２を中心に上下に揺動する。

後輪１５は、スイングアーム１６の後端部に設けられる車軸１５aに支持される。

[0013] パワーユニット１２は、前輪１３と後輪１５との間に配置され、車体フレーム１１に支持される。

パワーユニット１２は、内燃機関である。パワーユニット１２は、クランクケース２３と、往復運動するピストンを収容するシリンダー部２４とを備える。シリンダー部２４の排気ポートには、排気装置２５が接続される。

パワーユニット１２の出力は、パワーユニット１２と後輪１５とを接続す

る駆動力伝達部材によって後輪 15 に伝達される。

[0014] また、鞍乗り型車両 10 は、前輪 13 を上方から覆うフロントフェンダー 26 と、後輪 15 を上方から覆うリアフェンダー 27 と、乗員が足を載せるステップ 28 と、パワーユニット 12 が使用する燃料を蓄える燃料タンク 29 とを備える。

フロントフェンダー 26 は、フロントフォーク 14 に取り付けられる。リアフェンダー 27 及びステップ 28 は、シート 17 よりも下方に設けられる。燃料タンク 29 は、車体フレーム 11 に支持される。

[0015] 図 2 は、車体フレーム 11 の斜視図である。

鞍乗り型車両 10 は、自動二輪車である。図 1 及び図 2 を参照し、フロントフレーム 19 は、ヘッドパイプ 18 から後下がり後方に延びるメインフレーム 31 と、メインフレーム 31 の後端部から下方に延びる左右一対のピボットフレーム 32 と、ヘッドパイプ 18 から下方に延びるダウンフレーム 33 と、ダウンフレーム 33 の下端部から後方に延びてピボットフレーム 32 の下端部に接続される左右一対のロアフレーム 34 とを備える。

[0016] リアフレーム 20 は、ピボットフレーム 32 の上部から後方に延びる左右一対のシートフレーム 35 と、ピボットフレーム 32 においてシートフレーム 35 よりも下方の位置から後上方に延びてシートフレーム 35 に接続される左右一対のサブフレーム 36 とを備える。

詳細には、リアフレーム 20 は、シートフレーム 35 の後部から下方に延びる板状のガセット 37 を備える。サブフレーム 36 の後端部は、ガセット 37 を介してシートフレーム 35 に接続される。

また、左右のシートフレーム 35 の後端は、車幅方向（左右方向）に延びる後端接続部 38 によって車幅方向に接続されている。

さらに、左右のシートフレーム 35 の後部は、後端接続部 38 の前方で車幅方向に延びるクロスメンバー 39 によって車幅方向に接続されている。

[0017] ピボット軸 22 は、ピボットフレーム 32 に支持される。リアクッション 41 の上端はガセット 37 に連結され、リアクッション 41 の下端はスイン

グアーム 16 の後端部に連結される。

鞍乗り型車両 10 は、リアフレーム 20 を車幅方向外側から覆うサイドカバー 42 を備える。サイドカバー 42 は、工具等を収納可能な小物入れ（不図示）を車幅方向外側から覆う。サイドカバー 42 は、鞍乗り型車両 10 のメインキーによって操作されるキーシリンダー 42a を備える。キーシリンダー 42a によるロックが解除されると、サイドカバー 42 を開けることが可能となり、乗員は、上記小物入れにアクセス可能となる。

鞍乗り型車両 10 は、駐車時に鞍乗り型車両 10 を直立状態に支持するセンタースタンド 45 を備える。

[0018] 鞍乗り型車両 10 は、シート 17 の少なくとも一部を外側から覆うシートカウル 50 を、シート 17 の後方に備える。シートカウル 50 の内側には物品 46（図 6、図 7）等を収納可能である。シートカウル 50 は、リアフレーム 20 に取り付けられる。シートカウル 50 は、リアフレーム 20 及びリアフェンダー 27 の上方に配置される。

シート 17 は、一人乗り用のシートである。シート 17 及びシートカウル 50 に替えて、シート 17 よりも後方に延びる二人乗り用のシートをリアフレーム 20 に取り付けることも可能である。

[0019] 図 3 は、シート 17 の後部及びシートカウル 50 の左側面図である。図 4 は、シート 17 及びシートカウル 50 を上方から見た平面図である。図 5 は、シートカウル 50 の分解斜視図である。図 6 は、図 4 の VⅠ-VⅠ 断面図である。

シート 17 は、クッション材 17a（図 6）とクッション材 17a を下方から支持するシート底板 17b と、クッション材 17a を覆うシート表皮 17c とを備える。

シートカウル 50 は、シート 17 の後面であるシート後面 17d（後面）に後方から近接するように配置される。

[0020] シートカウル 50 は、車体に取り付けられるベース部 51 と、ベース部 51 を上方から覆うカウル部 52 とを備える。

また、リアフレーム２０には、ベース部５１を支持する左右一対のブラケット５３（車体）が取り付けられる。ブラケット５３は、シート１７の後方に設けられる。

[0021] ブラケット５３は、板状の前側固定部５３ａと、前側固定部５３ａの後方に位置する板状の後側固定部５３ｂと、前側固定部５３ａと後側固定部５３ｂとを前後に接続する取っ手状の前後接続部５３ｃとを備える。

ブラケット５３は、前側固定部５３ａ及び後側固定部５３ｂにそれぞれ車幅方向外側から挿通されるブラケット締結具５４によって、リアフレーム２０の外側面に固定される。一方のブラケット５３は、リアフレーム２０の後部の左側面に締結され、他方のブラケット５３は、リアフレーム２０の後部の右側面に締結される。

[0022] また、ブラケット５３は、前側固定部５３ａの上端から車幅方向外側に延出する前側支持部５３ｄと、後側固定部５３ｂの上端から車幅方向内側に延出する後側支持部５３ｅとを備える。

前側支持部５３ｄ及び後側支持部５３ｅは、前後接続部５３ｃの上方に位置する。前後接続部５３ｃは、乗員がセンタースタンド４５によって鞍乗り型車両１０を駐車する際に乗員が把持する把持部として機能する。

ブラケット５３は、車体フレーム１１のリアフレーム２０に取り付けられており、車体の一部を構成する。

[0023] 図７は、図４のＶ－Ｖ断面図である。図８は、カウル部５２を不図示にした状態でシート１７及びベース部５１を上方から見た平面図である。

図３～図８を参照し、ベース部５１は、ブラケット５３に上方から取り付けられてシート１７の後方に位置し、リアフレーム２０及びリアフェンダー２７を上方から覆う。

[0024] ベース部５１は、板厚方向を上下方向に指向させて配置される底壁５５を備える。底壁５５は、図８のように上方からの平面視では、後方に向けて先細りとなる台形状であり、ベース部５１の左右方向の幅は、後方に向かうに

従って小さくなる。底壁 5 5 は、車両側面視で、シートフレーム 3 5 に沿うように後上がりに傾斜している。

底壁 5 5 の前縁部は、平面視では、シート後面 1 7 d に沿うように、後方に凹となるように全体的に湾曲している。また、底壁 5 5 の後縁部は、平面視では、後方に凸となるように全体的に湾曲している。

[0025] ベース部 5 1 は、底壁 5 5 の前縁部から上方に延出するベース部前壁 5 6 と、底壁 5 5 の左右の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ 5 7 とを備える。

詳細には、外側リブ 5 7 は、底壁 5 5 の左右の側縁部から上方に延出する左右一对の側縁リブ 5 7 a と、底壁 5 5 の後縁部から上方に延出する後縁リブ 5 7 b とを備える。

[0026] また、ベース部 5 1 は、底壁 5 5 から上方に延出して収納部 5 8 を区画するリブ部 6 0 を備える。リブ部 6 0 は、底壁 5 5 の車幅方向の中央部に設けられる。リブ部 6 0 は、左右の側縁リブ 5 7 a の間、且つ、ベース部前壁 5 6 と後縁リブ 5 7 b との間に位置する。

[0027] リブ部 6 0 は、車両前後方向に延びて収納部 5 8 を左右方向に区画する左右一对の側壁 6 1 と、収納部 5 8 を前方から区画する前壁 6 2 と、収納部 5 8 を後方から区画する後壁 6 3 とを備える。

側壁 6 1 は、底壁 5 5 から上方に延出する。左右の側壁 6 1 の左右方向の間隔は、後方に向かうに従って小さくなる。

[0028] 前壁 6 2 は、左右方向に延びて左右の側壁 6 1 の前端を左右方向に接続する。詳細には、前壁 6 2 は、ベース部前壁 5 6 における左右方向の中間部によって構成される。すなわち、前壁 6 2 は、ベース部前壁 5 6 の一部である。

後壁 6 3 は、後縁リブ 5 7 b の前方で底壁 5 5 から上方に延出する。後壁 6 3 は、左右方向に延びて左右の側壁 6 1 の後端を左右方向に接続する。

収納部 5 8 は、底壁 5 5 上において、左右の側壁 6 1 、前壁 6 2 、及び後壁 6 3 によって囲まれた部屋である。収納部 5 8 の上面は上方に開口する。

[0029] 収納部 5 8 内には、底壁 5 5 から上方に延びる仕切り壁 5 8 a が設けられる。仕切り壁 5 8 a は、一方の側壁 6 1 に沿って前後方向に延びる。

収納部 5 8 には、物品 4 6 が収納される。収納部 5 8 において仕切り壁 5 8 a と側壁 6 1 との間には、第 2 の物品 4 7 が収納される。

物品 4 6 は、例えば、有料道路の電子料金収受システムの車載器である。第 2 の物品 4 7 は、例えば、車載工具である。収納部 5 8 には、物品 4 6 及び第 2 の物品 4 7 に追加または交換して、他の物品を収納可能である。

[0030] ベース部 5 1 は、底壁 5 5 がブラケット 5 3 の前側支持部 5 3 d (図 5) 及び後側支持部 5 3 e (図 5) 上に載置され、前側支持部 5 3 d 及び後側支持部 5 3 e に締結される。

詳細には、底壁 5 5 は、底壁 5 5 の前部に上方から挿通される左右一対の前側締結具 6 5 (締結具) によって、前側支持部 5 3 d に締結される。また、底壁 5 5 は、底壁 5 5 の後部に上方から挿通される左右一対の後側締結具 6 6 (締結具) によって、後側支持部 5 3 e に締結される。

前側締結具 6 5 及び後側締結具 6 6 は、リブ部 6 0 の側壁 6 1 と側縁リブ 5 7 a との間に設けられる。すなわち、前側締結具 6 5 及び後側締結具 6 6 は、底壁 5 5 上において収納部 5 8 の外側に配置される。

[0031] 底壁 5 5 において後縁リブ 5 7 b とリブ部 6 0 の後壁 6 3 との間には、カウル部 5 2 が嵌合する嵌合部 6 8 が設けられる。すなわち、嵌合部 6 8 は、底壁 5 5 上において収納部 5 8 の外側に配置される。

嵌合部 6 8 は、底壁 5 5 を上下に貫通する筒状部材であり、カウル部 5 2 は、この筒状部材の内周部に嵌合する。この筒状部材は、例えばゴム製である。

[0032] 外側リブ 5 7 の外側面には、外側リブ 5 7 の上端部に対し下方の位置から外側に突出する段部 5 7 c が設けられる。段部 5 7 c は、左右の側縁リブ 5 7 a 及び後縁リブ 5 7 b の外側面に設けられる。

[0033] 左右の側縁リブ 5 7 a の前端部には、前側締結部 6 9 がそれぞれ設けられる。前側締結部 6 9 には、カウル部 5 2 をベース部 5 1 に締結する前側カウ

ル締結具 7 0 が車幅方向外側から締結される。前側締結部 6 9 は、前側締結具 6 5 の前方に位置する。

前側締結部 6 9 は、例えば、側縁リブ 5 7 a に取り付けられるクリップナットである。

[0034] 図 3、図 7 及び図 8 を参照し、ベース部 5 1 の前後の中間部には、底壁 5 5 から下方に延出する左右締結部 7 1 が左右一対設けられる。左右締結部 7 1 は、左右締結部 7 1 を左右方向に貫通する固定孔 7 1 a を備える。左右締結部 7 1 は、左右方向において、リブ部 6 0 と側縁リブ 5 7 a との間に設けられる。左右締結部 7 1 は、前側締結部 6 9 の後方に位置する。

固定孔 7 1 a には、カウル部 5 2 をベース部 5 1 に締結する後側カウル締結具 7 2 が車幅方向外側から挿通される。

底壁 5 5 には、左右締結部 7 1 に隣接して左右締結部 7 1 の車幅方向内側の位置に、底壁 5 5 を上下に貫通する通し孔 7 3 が設けられる。

[0035] 図 3～図 8 を参照し、カウル部 5 2 は、上方からの平面視においてベース部 5 1 の全体を上方から覆う大きさのカバー部材である。カウル部 5 2 は、シート 1 7 の後端部を車幅方向外側から覆う。

カウル部 5 2 は、ベース部 5 1 を上方から覆うカウル上面部 8 0 (カウル部の上面) と、カウル上面部 8 0 の左右の側縁から下方に延びる左右一対のカウル側面部 8 1 と、カウル上面部 8 0 の前縁から下方に延出するカウル前面部 8 2 と、カウル上面部 8 0 の後縁から下方に延出するカウル後面部 8 3 とを一体に備える。

[0036] カウル上面部 8 0 は、図 4 のように上方からの平面視では、後方に向けて先細りとなる台形状であり、カウル上面部 8 0 の左右方向の幅は、後方に向かうに従って小さくなる。

カウル上面部 8 0 の前縁は、平面視では、シート後面 1 7 d に沿うように、後方に凹となるように全体的に湾曲している。また、カウル上面部 8 0 の後縁は、平面視では、後方に凸となるように全体的に湾曲している。

[0037] カウル上面部 8 0 は、車両側面視では、後下がりに傾斜している。カウル

上面部 80 の左右方向の中央部 80 a は、車両側面視で、全体が後下がり
に傾斜している。

カウル上面部 80 の左右の側部 80 b は、中央部 80 a から車幅方向外側
に向かうに従って下方に位置するように傾斜している。カウル上面部 80 の
左右の中央部は、図 7 の断面視では、上方に凸の曲面状である。

[0038] 左右のカウル側面部 81 は、側部 80 b の側縁から下方に延び、ベース部
51 の側縁リブ 57 a を車幅方向外側から覆う。

カウル後面部 83 は、ベース部 51 の後縁リブ 57 b を後方から覆う。

カウル前面部 82 は、カウル上面部 80 の前縁から前下がり
に延びる傾斜面である。カウル前面部 82 は、ベース部前壁 56 の上部を前方から覆う。

[0039] 図 6 を参照し、カウル部 52 は、カウル上面部 80 の内面 80 c から下方
に延出する嵌合突出部 84 を、カウル部 52 の後端部に備える。カウル部 52
の後端部は、嵌合突出部 84 がベース部 51 の嵌合部 68 に上方から嵌合
することで、ベース部 51 に固定される。

[0040] 図 3、図 5 及び図 8 を参照し、カウル側面部 81 の前端部は、側縁リブ 57
a の前端部を車幅方向外側から覆う。カウル部 52 の前部は、カウル側面
部 81 の前端部の孔に車幅方向外側から挿通される前側カウル締結具 70 に
よって、前側締結部 69 に固定される。前側カウル締結具 70 は例えばボルト
である。

[0041] 図 3、図 5、図 7 及び図 8 を参照し、カウル部 52 は、内面 80 c におけ
る側部 80 b の部分から下方に延出する固定片 85 を左右一対備える。固定
片 85 は、カウル部 52 の前後の中間部に設けられる。

固定片 85 は、通し孔 73 に上方から挿通され、ベース部 51 の左右締結
部 71 に車幅方向内側から挿通される。

カウル部 52 の前後の中間部は、左右締結部 71 の固定孔 71 a 及び固定
片 85 の孔に車幅方向外側から挿通される後側カウル締結具 72 によって、
左右締結部 71 に固定される。後側カウル締結具 72 は、例えばピン状のク
リップである。

左右締結部 7 1 では、カウル部 5 2 とベース部 5 1 とが左右方向に締結される。

[0042] 図 3 及び図 5 ～図 8 を参照し、カウル部 5 2 がベース部 5 1 に取り付けられた状態では、カウル部 5 2 の下縁部 8 6 は、ベース部 5 1 の外側リブ 5 7 を外側から覆う。ここで、下縁部 8 6 は、カウル側面部 8 1 の下縁部及びカウル後面部 8 3 の下縁部である。

詳細には、下縁部 8 6 は、側縁リブ 5 7 a の上端部を車幅方向外側から覆い、後縁リブ 5 7 b の上端部を後方から覆う。また、下縁部 8 6 の下端面は、段部 5 7 c の上面に上方から対向している。これにより、下縁部 8 6 と外側リブ 5 7 との間にラビリンス構造が形成されるため、下縁部 8 6 と外側リブ 5 7 との間からカウル部 5 2 の内側に水が入ることが抑制される。

[0043] 図 5 ～図 8 を参照し、ベース部前壁 5 6 は、底壁 5 5 の前縁部から前上方に斜めに延びる傾斜部 5 6 a と、傾斜部 5 6 a の上端から略鉛直に上方へ延びる鉛直部 5 6 b とを備える。ベース部前壁 5 6 の上縁 5 6 c は、シート後面 1 7 d の上端 1 7 e よりも上方に位置する。

リブ部 6 0 の前壁 6 2 はベース部前壁 5 6 の一部であるため、前壁 6 2 は、傾斜部 5 6 a 及び鉛直部 5 6 b を備える。

リブ部 6 0 の後壁 6 3 は前壁 6 2 よりも低い壁であり、後壁 6 3 の上縁 6 3 a は、上縁 5 6 c よりも下方に位置する。

[0044] リブ部 6 0 の各側壁 6 1 は、車両前後後方に延びて、前壁 6 2 と後壁 6 3 とを接続する。

シートカウル 5 0 を鞍乗り型車両 1 0 に搭載した状態において、側壁 6 1 の上縁 6 1 a は、車両側面視で、ベース部前壁 5 6 の上縁 5 6 c からやや後上がり姿勢で後方に延びる。また、側壁 6 1 の上縁 6 1 a は、車両側面視で、側壁 6 1 の前後の中間部で下方に屈曲し、後下がり姿勢で後方に延びて後壁 6 3 の上縁 6 3 a に接続される。

すなわち、車両側面視において、上縁 6 1 a の前部は、後上がりに延びる後上がり部 6 1 b であり、上縁 6 1 a の後部は、後下がりに延びる後下がり

部 6 1 c である。

[0045] リブ部 6 0 は、カウル部 5 2 によって上方から覆われており、リブ部 6 0 によって区画される収納部 5 8 はカウル部 5 2 の内側に位置する。

左右の側壁 6 1 の上縁 6 1 a は、カウル上面部 8 0 によって上方から覆われる。

上縁 6 1 a の後上がり部 6 1 b 及び後下がり部 6 1 c は、カウル上面部 8 0 の内面 8 0 c に対し下方に離間しており、内面 8 0 c に接触しない。

後下がり部 6 1 c は、後下がりの内面 8 0 c に沿って後下がり形成されている。

[0046] 鞍乗り型車両 1 0 は、シートカウル 5 0 のカウル上面部 8 0 が後下がりであるため、走行風は、カウル上面部 8 0 に沿ってスムーズに後方に流れる。このため、シートカウル 5 0 による空気抵抗を低減でき、鞍乗り型車両 1 0 の空力特性が良い。

収納部 5 8 に収納される物品は、左右の側壁 6 1 によって左右方向に支持されることができ、前壁 6 2 及び後壁 6 3 によって車両前後方向に支持されることができる。このため、物品を収納部 5 8 によって良好に支持できる。

[0047] シートカウル 5 0 では、側壁 6 1 の上縁 6 1 a の位置は、収納部 5 8 の最大積載量を示す。側壁 6 1 の上縁 6 1 a の位置が収納部 5 8 の最大積載量の目安となることは、例えばシートカウル 5 0 についての説明書に記載される。

乗員等は、カウル部 5 2 が取り外された状態で、側壁 6 1 の上縁 6 1 a の位置を目安にして、上縁 6 1 a の高さ位置まで収納部 5 8 に物品を収納することができる。その後、乗員等は、カウル部 5 2 をベース部 5 1 に取り付ける。

シートカウル 5 0 では、上縁 6 1 a の位置を目安にすることで、収納部 5 8 の物品が高さ的に過積載になることが抑制されるため、物品がカウル部 5 2 の取り付けの邪魔になることが抑制され、カウル部 5 2 を良好にベース部 5 1 に取り付けできる。

シートカウル50では、カウル上面部80が後下がり傾斜しているため、収納部58の高さ方向の最大積載量が分かり難いが、後下がり部61cの上縁61aを目安とすることで、最大積載量が分かり易くなる。

[0048] また、側壁61の上縁61aがカウル上面部80の内面80cに対し下方に離間しているため、上縁61aの位置を若干超えて収納部58に物品を収納した場合であっても、カウル部52を良好にベース部51に取り付けできる。

[0049] 図7を参照し、リブ部60の後壁63の上縁63aは、カウル上面部80の内面80cに沿って上方に凸となる曲線状に形成されている。すなわち、上縁63aは、車幅方向に延びるアーチ状に形成されている。シートカウル50では、後壁63の上縁63aの位置は、収納部58の後端部における最大積載量を示す。後壁63の上縁63aの位置が収納部58の最大積載量の目安となることは、例えばシートカウル50についての説明書に記載される。

シートカウル50では、上縁63aがアーチ状であるため積載量を大きく確保できるとともに、上縁63aの位置を目安にすることで、収納部58の物品が高さ的に過積載になることが抑制されるため、物品がカウル部52の取り付けの邪魔になることが抑制され、カウル部52を良好にベース部51に取り付けできる。

また、後壁63の上縁63aがカウル上面部80の内面80cに対し下方に離間しているため、上縁63aの位置を若干超えて収納部58に物品を収納した場合であっても、カウル部52を良好にベース部51に取り付けできる。

なお、上縁63aは、少なくとも一部が内面80cに沿ってアーチ状に形成されていれば良い。

[0050] 図6を参照し、リアフレーム20（図2）のクロスメンバー39には、シート17の後端部が固定されるシートステー43が設けられる。シートステー43は、クロスメンバー39の上面から後上方に延びる。

シート１７は、シート１７の後部の下面からシート後面１７ｄの後方に延出する取付部１７ｆを備える。取付部１７ｆは、取付部１７ｆに上方から挿通されるシート締結具１７ｇによって、シートステー４３に固定される。

ベース部５１の底壁５５の前部は、シート締結具１７ｇ及び取付部１７ｆを上方から覆う。これにより、シート締結具１７ｇ及び取付部１７ｆを底壁５５によって隠すことができ、外観性が良い。

[0051] 図６を参照し、ベース部前壁５６は、シート後面１７ｄに後方から近接する。ベース部前壁５６の傾斜部５６ａは、前上がりに傾斜するシート後面１７ｄに沿って前上がりに延びる。

カウル前面部８２の下端部は、シート後面１７ｄの後方でベース部前壁５６の上部に前方から重なる。カウル前面部８２の下端部は、ベース部前壁５６の上部に対し前方に離間している。

カウル前面部８２の下縁８２ａは、シート後面１７ｄの上端１７ｅより下方に位置するとともに、シート後面１７ｄに対し上方及び後方に離間している。

カウル前面部８２の下端部の近傍では、上端１７ｅと、上端１７ｅより下方に位置する下縁８２ａと、下縁８２ａより上方に位置する上縁５６ｃとによってラビリンス構造が形成される。これにより、シートカウル５０の前面の防水性を向上できる。

[0052] 図９は、図６においてシート後面１７ｄに対しシートカウル５０が近接する部分を拡大した断面図である。

ベース部前壁５６の傾斜部５６ａとシート後面１７ｄとの距離Ｌ１は、カウル前面部８２の前縁８２ｂとシート後面１７ｄとの距離Ｌ２よりも小さい。ここで、距離Ｌ１は、傾斜部５６ａの高さ方向の全体に亘って略一定である。また、前縁８２ｂは、カウル前面部８２の下端の前縁である。

[0053] 例えば、乗員がシート１７に着座すること等によってシート１７が変形する場合、シート後面１７ｄは後方に変位する。鞍乗り型車両１０では、距離Ｌ１が距離Ｌ２よりも小さいため、シート後面１７ｄが後方に変位した場合

、シート後面１７ｄは、カウル前面部８２の前縁８２ｂよりも先に傾斜部５６ａの前面に接触する。このため、カウル前面部８２の前縁８２ｂがシート後面１７ｄに強く接触することが抑制され、シート後面１７ｄ及び前縁８２ｂの傷の発生を抑制できる。

傾斜部５６ａは、カウル前面部８２の下方で入り組んだ場所に位置するため、外側から視認され難い。これに対し、カウル前面部８２の前縁８２ｂは、外側に露出するため、例えば前縁８２ｂの塗装に傷が付くと、傷が目立ち易い。本実施の形態では、前縁８２ｂの傷の発生を抑制できる。

[0054] 以上説明したように、本発明を適用した実施の形態によれば、収納部構造は、鞍乗り型車両１０の乗員用のシート１７の後方に設けられるシートカウル５０と、シートカウル５０の内側に設けられる収納部５８とを備え、車両側面視でシートカウル５０が後下がり傾斜し、シートカウル５０は、車体であるブラケット５３に取り付けられるベース部５１と、ベース部５１を上方から覆うカウル部５２とを備える。ベース部５１は、底壁５５と、底壁５５から上方に延出して収納部５８を区画するリブ部６０とを備え、リブ部６０は、車両前後方向に延びて収納部５８を左右方向に区画する左右一対の側壁６１を少なくとも備え、車両側面視で、カウル部５２の上面であるカウル上面部８０は、後下がり形成され、車両側面視で、側壁６１の上縁６１ａの少なくとも一部は、カウル上面部８０の内面８０ｃに沿って後下がり形成されている。

この構成によれば、収納部５８は、底壁５５から上方に延出する左右一対の側壁６１によって、物品を保持できる。また、側壁６１の上縁６１ａがカウル上面部８０の内面８０ｃに沿って後下がり形成されるため、側壁６１の上縁６１ａは、収納部５８の最大積載量の目安になり、カウル上面部８０が後下がりの場合であっても、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウル５０の内側の収納部５８に物品を良好に保持でき、且つ、収納部５８に物品を収納し易くできる。

[0055] また、側壁６１の上縁６１ａは、内面８０ｃに対し下方に離間している。

この構成によれば、側壁 6 1 の上縁 6 1 a が示す最大積載量に対し、積載量の余裕ができるため、収納部 5 8 に物品を収納し易い。また、側壁 6 1 の上縁 6 1 a と内面 8 0 c との接触を管理する必要が無いため、カウル部 5 2 をベース部 5 1 に組み付け易い。

[0056] また、リブ部 6 0 は、収納部 5 8 を前方から区画する前壁 6 2 と、収納部 5 8 を後方から区画する後壁 6 3 とを備える。

この構成によれば、前壁 6 2、後壁 6 3、及び左右の側壁 6 1 によって収納部 5 8 が区画されるため、収納部 5 8 に物品を良好に保持できる。

[0057] また、後壁 6 3 の上縁 6 3 a の少なくとも一部は、カウル上面部 8 0 の内面 8 0 c に沿ってアーチ状に形成されている。

この構成によれば、リブ部 6 0 の後壁 6 3 の上縁 6 3 a を収納部 5 8 の最大積載量の目安にでき、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウル 5 0 の内側の収納部 5 8 に物品を良好に保持でき、且つ、収納部 5 8 に物品を収納し易くできる。

[0058] さらに、ベース部 5 1 は、平面視においてリブ部 6 0 の外側で底壁 5 5 の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ 5 7 を備え、カウル部 5 2 の下縁部 8 6 は、平面視において外側リブ 5 7 の外側に位置し、外側リブ 5 7 を外側から覆う。

この構成によれば、外側リブ 5 7 とカウル部 5 2 の下縁部 8 6 とによって形成されるラビリンス構造、及び底壁 5 5 から上方に延出するリブ部 6 0 によって、収納部 5 8 の防水性を高くできる。

[0059] また、ブラケット 5 3 にベース部 5 1 を固定する前側締結具 6 5 及び後側締結具 6 6 は、リブ部 6 0 と外側リブ 5 7 との間に配置される。

この構成によれば、前側締結具 6 5 及び後側締結具 6 6 が収納部 5 8 の外側に位置するため、前側締結具 6 5 及び後側締結具 6 6 は収納部 5 8 に収納される物品の邪魔になり難い。このため、収納部 5 8 に物品を収納し易い。

[0060] また、ベース部 5 1 は、シート 1 7 の後面であるシート後面 1 7 d に後方から対向するベース部前壁 5 6 を備え、カウル部 5 2 は、カウル上面部 8 0

の前縁から下方に延出するカウル前面部 8 2 を備え、カウル前面部 8 2 は、シート後面 1 7 d の後方で、ベース部前壁 5 6 の上部に前方から重なり、カウル前面部 8 2 の下縁 8 2 a は、シート後面 1 7 d の上端 1 7 e よりも下方に位置する。

この構成によれば、シート後面 1 7 d とカウル前面部 8 2 の下縁 8 2 a とベース部前壁 5 6 の上部とによってラビリンス構造が形成されるため、収納部 5 8 の防水性を向上できる。

[0061] また、ベース部前壁 5 6 とシート後面 1 7 d との距離 L 1 は、カウル前面部 8 2 の前縁 8 2 b とシート後面 1 7 d との距離 L 2 よりも小さい。

この構成によれば、乗員の着座等によってシート 1 7 が大きく変形した場合には、シート後面 1 7 d は、カウル前面部 8 2 の前縁 8 2 b よりも先にベース部前壁 5 6 に当たる。これにより、シート後面 1 7 d とカウル前面部 8 2 の前縁 8 2 b との接触を抑制でき、シート後面 1 7 d 及びカウル前面部 8 2 の傷の発生を抑制できる。

[0062] また、車両側面視で、ベース部 5 1 の前後の中間部に、カウル部 5 2 とベース部 5 1 とを左右に締結する左右締結部 7 1 が設けられる。

この構成によれば、カウル部 5 2 の後下がりの形状によって収納部 5 8 の容量が小さくなって過積載になり易い部分を、左右締結部 7 1 によって固定できるため、カウル部 5 2 を効果的に固定できる。

[0063] なお、上記実施の形態は本発明を適用した一態様を示すものであって、本発明は上記実施の形態に限定されるものではない。

上記実施の形態では、リブ部 6 0 は、左右一対の側壁 6 1 と、前壁 6 2 と、後壁 6 3 とを備えるものとして説明したが、本発明はこれに限定されず、リブ部 6 0 は少なくとも左右一対の側壁 6 1 を備えていれば良い。例えば、リブ部 6 0 が後壁 6 3 を備えない場合、カウル部 5 2 の後部の内面によって物品を保持しても良い。

また、上記実施の形態では、後下がり部 6 1 c は、上縁 6 1 a の後部に設けられているが、これに限らず、上縁 6 1 a の全体を後下がりに形成しても

良い。

また、上記実施の形態では、左右締結部 7 1 は、ベース部 5 1 の前後の中間部に設けられるが、これに限らず、左右締結部 7 1 は、ベース部 5 1 の前後の中間部よりも後方に設けられても良い。

また、上記実施の形態では、自動二輪車である鞍乗り型車両 1 0 に設けられる収納部構造を例に挙げて説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、収納部構造は、三輪の鞍乗り型車両、及び四輪以上を備える鞍乗り型車両に設けられても良い。

[0064] [上記実施の形態によりサポートされる構成]

上記実施の形態は、以下の構成をサポートする。

[0065] (構成 1) 鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、前記シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視で前記シートカウルが後下がり傾斜している収納部構造において、前記シートカウルは、車体に取り付けられるベース部と、前記ベース部を上方から覆うカウル部とを備え、前記ベース部は、底壁と、前記底壁から上方に延出して前記収納部を区画するリブ部とを備え、前記リブ部は、車両前後方向に延びて前記収納部を左右方向に区画する左右一対の側壁を少なくとも備え、車両側面視で、前記カウル部の上面は、後下がり形成され、車両側面視で、前記側壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の内面に沿って後下がり形成されていることを特徴とする収納部構造。

この構成によれば、収納部は、底壁から上方に延出する左右一対の側壁によって、物品を保持できる。また、側壁の上縁がカウル部の上面の内面に沿って後下がり形成されるため、側壁の上縁は、収納部の最大積載量の目安になり、カウル部の上面が後下がりの場合であっても、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持でき、且つ、収納部に物品を収納し易くできる。

[0066] (構成 2) 前記側壁の前記上縁は、前記内面に対し下方に離間していることを特徴とする構成 1 記載の収納部構造。

この構成によれば、側壁の上縁が示す最大積載量に対し、積載量の余裕ができるため、収納部に物品を収納し易い。また、側壁の上縁と内面との接触を管理する必要が無いため、カウル部をベース部に組み付け易い。

[0067] (構成3) 前記リブ部は、前記収納部を前方から区画する前壁と、前記収納部を後方から区画する後壁とを備えることを特徴とする構成1または2記載の収納部構造。

この構成によれば、前壁、後壁、及び左右の側壁によって収納部が区画されるため、収納部に物品を良好に保持できる。

[0068] (構成4) 前記後壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の前記内面に沿ってアーチ状に形成されていることを特徴とする構成3記載の収納部構造。

この構成によれば、リブ部の後壁の上縁を収納部の最大積載量の目安にでき、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持でき、且つ、収納部に物品を収納し易くできる。

[0069] (構成5) 前記ベース部は、平面視において前記リブ部の外側で前記底壁の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブを備え、前記カウル部の下縁部は、平面視において前記外側リブの外側に位置し、前記外側リブを外側から覆うことを特徴とする構成1から4のいずれかに記載の収納部構造。

この構成によれば、外側リブとカウル部の下縁部とによって形成されるラビリンス構造、及び底壁から上方に延出するリブ部によって、収納部の防水性を高くできる。

[0070] (構成6) 前記車体に前記ベース部を固定する締結具は、前記リブ部と前記外側リブとの間に配置されることを特徴とする構成5記載の収納部構造。

この構成によれば、締結具が収納部の外側に位置するため、締結具は収納部に収納される物品の邪魔になり難い。このため、収納部に物品を収納し易い。

[0071] (構成7) 前記ベース部は、前記シートの後面に後方から対向するベース部前壁を備え、前記カウル部は、前記上面の前縁から下方に延出するカウル前面部を備え、前記カウル前面部は、前記後面の後方で、前記ベース部前壁

の上部に前方から重なり、前記カウル前面部の下縁は、前記後面の上端よりも下方に位置することを特徴とする構成 1 から 6 のいずれかに記載の収納部構造。

この構成によれば、シートの後面とカウル前面部の下縁とベース部前壁の上部とによってラビリンス構造が形成されるため、収納部の防水性を向上できる。

[0072] (構成 8) 前記ベース部前壁と前記後面との距離は、前記カウル前面部の前縁と前記後面との距離よりも小さいことを特徴とする構成 7 記載の収納部構造。

この構成によれば、乗員の着座等によってシートが大きく変形した場合には、シートの後面は、カウル前面部の前縁よりも先にベース部前壁に当たる。これにより、シートの後面とカウル前面部の前縁との接触を抑制でき、シートの後面及びカウル前面部の傷の発生を抑制できる。

[0073] (構成 9) 車両側面視で、前記ベース部の前後の中間部、または前記中間部よりも後方に、前記カウル部と前記ベース部とを左右に締結する左右締結部が設けられることを特徴とする構成 1 から 8 のいずれかに記載の収納部構造。

この構成によれば、カウル部の後下がり形状によって収納部の容量が小さくなって過積載になり易い部分を、左右締結部によって固定できるため、カウル部を効果的に固定できる。

符号の説明

[0074] 1 0 鞍乗り型車両
1 7 シート
1 7 d シート後面 (後面)
1 7 e 上端
5 0 シートカウル
5 1 ベース部
5 2 カウル部

- 5 3 ブラケット（車体）
- 5 5 底壁
- 5 6 ベース部前壁
- 5 7 外側リブ
- 5 8 収納部
- 6 0 リブ部
- 6 1 側壁
- 6 1 a 上縁（側壁の上縁）
- 6 2 前壁
- 6 3 後壁
- 6 3 a 上縁（後壁の上縁）
- 6 5 前側締結具（締結具）
- 6 6 後側締結具（締結具）
- 7 1 左右締結部
- 8 0 カウル上面部（カウル部の上面）
- 8 0 c 内面
- 8 2 カウル前面部
- 8 2 a 下縁
- 8 2 b 前縁
- 8 6 下縁部
- L 1 距離（ベース部前壁と後面との距離）
- L 2 距離（カウル前面部の前縁と後面との距離）

請求の範囲

- [請求項1] 鞍乗り型車両（１０）の乗員用のシート（１７）の後方に設けられるシートカウル（５０）と、前記シートカウル（５０）の内側に設けられる収納部（５８）とを備え、車両側面視で前記シートカウル（５０）が後下がりに傾斜している収納部構造において、
- 前記シートカウル（５０）は、車体（５３）に取り付けられるベース部（５１）と、前記ベース部（５１）を上方から覆うカウル部（５２）とを備え、
- 前記ベース部（５１）は、底壁（５５）と、前記底壁（５５）から上方に延出して前記収納部（５８）を区画するリブ部（６０）とを備え、
- 前記リブ部（６０）は、車両前後方向に延びて前記収納部（５８）を左右方向に区画する左右一对の側壁（６１）を少なくとも備え、
- 車両側面視で、前記カウル部（５２）の上面（８０）は、後下がりに形成され、
- 車両側面視で、前記側壁（６１）の上縁（６１ａ）の少なくとも一部は、前記上面（８０）の内面（８０ｃ）に沿って後下がりに形成されていることを特徴とする収納部構造。
- [請求項2] 前記側壁（６１）の前記上縁（６１ａ）は、前記内面（８０ｃ）に対し下方に離間していることを特徴とする請求項１記載の収納部構造。
- [請求項3] 前記リブ部（６０）は、前記収納部（５８）を前方から区画する前壁（６２）と、前記収納部（５８）を後方から区画する後壁（６３）とを備えることを特徴とする請求項１または２記載の収納部構造。
- [請求項4] 前記後壁（６３）の上縁（６３ａ）の少なくとも一部は、前記上面（８０）の前記内面（８０ｃ）に沿ってアーチ状に形成されていることを特徴とする請求項３記載の収納部構造。
- [請求項5] 前記ベース部（５１）は、平面視において前記リブ部（６０）の外

側で前記底壁（５５）の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ（５７）を備え、

前記カウル部（５２）の下縁部（８６）は、平面視において前記外側リブ（５７）の外側に位置し、前記外側リブ（５７）を外側から覆うことを特徴とする請求項１から４のいずれかに記載の収納部構造。

[請求項6] 前記車体（５３）に前記ベース部（５１）を固定する締結具（６５，６６）は、前記リブ部（６０）と前記外側リブ（５７）との間に配置されることを特徴とする請求項５記載の収納部構造。

[請求項7] 前記ベース部（５１）は、前記シート（１７）の後面（１７ｄ）に後方から対向するベース部前壁（５６）を備え、

前記カウル部（５２）は、前記上面（８０）の前縁から下方に延出するカウル前面部（８２）を備え、

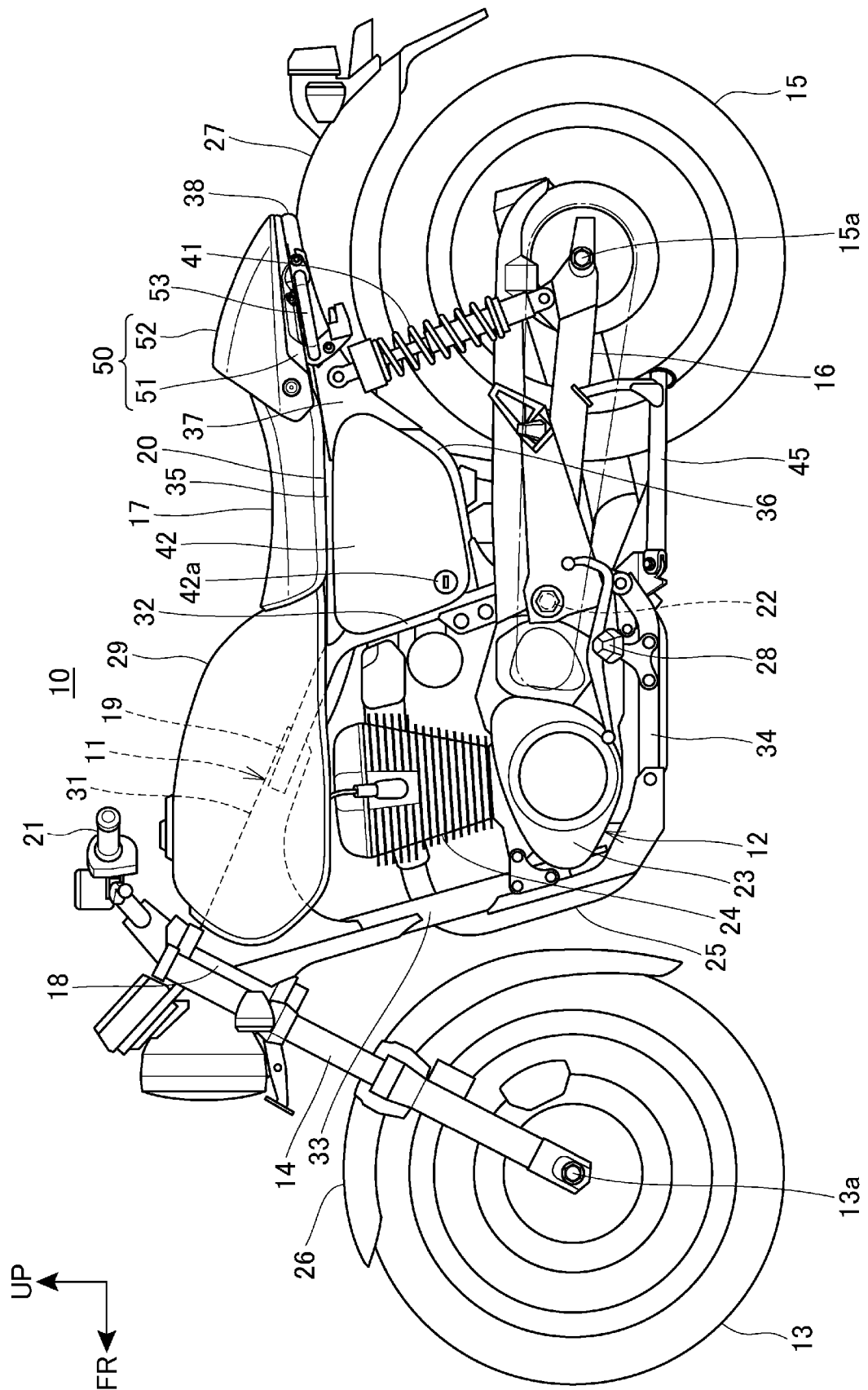
前記カウル前面部（８２）は、前記後面（１７ｄ）の後方で、前記ベース部前壁（５６）の上部に前方から重なり、

前記カウル前面部（８２）の下縁（８２ａ）は、前記後面（１７ｄ）の上端（１７ｅ）よりも下方に位置することを特徴とする請求項１から６のいずれかに記載の収納部構造。

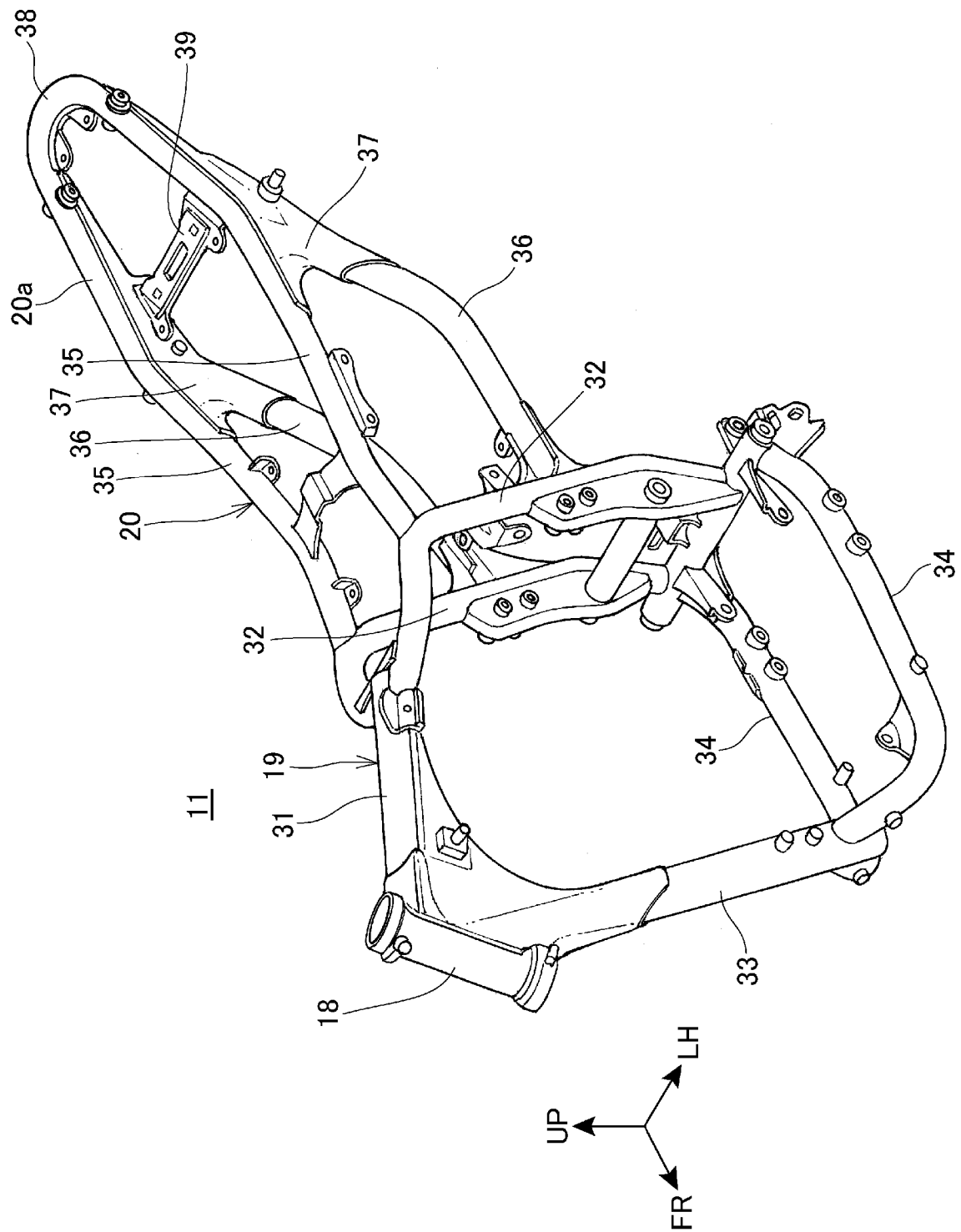
[請求項8] 前記ベース部前壁（５６）と前記後面（１７ｄ）との距離（Ｌ１）は、前記カウル前面部（８２）の前縁（８２ｂ）と前記後面（１７ｄ）との距離（Ｌ２）よりも小さいことを特徴とする請求項７記載の収納部構造。

[請求項9] 車両側面視で、前記ベース部（５１）の前後の中間部、または前記中間部よりも後方に、前記カウル部（５２）と前記ベース部（５１）とを左右に締結する左右締結部（７１）が設けられることを特徴とする請求項１から８のいずれかに記載の収納部構造。

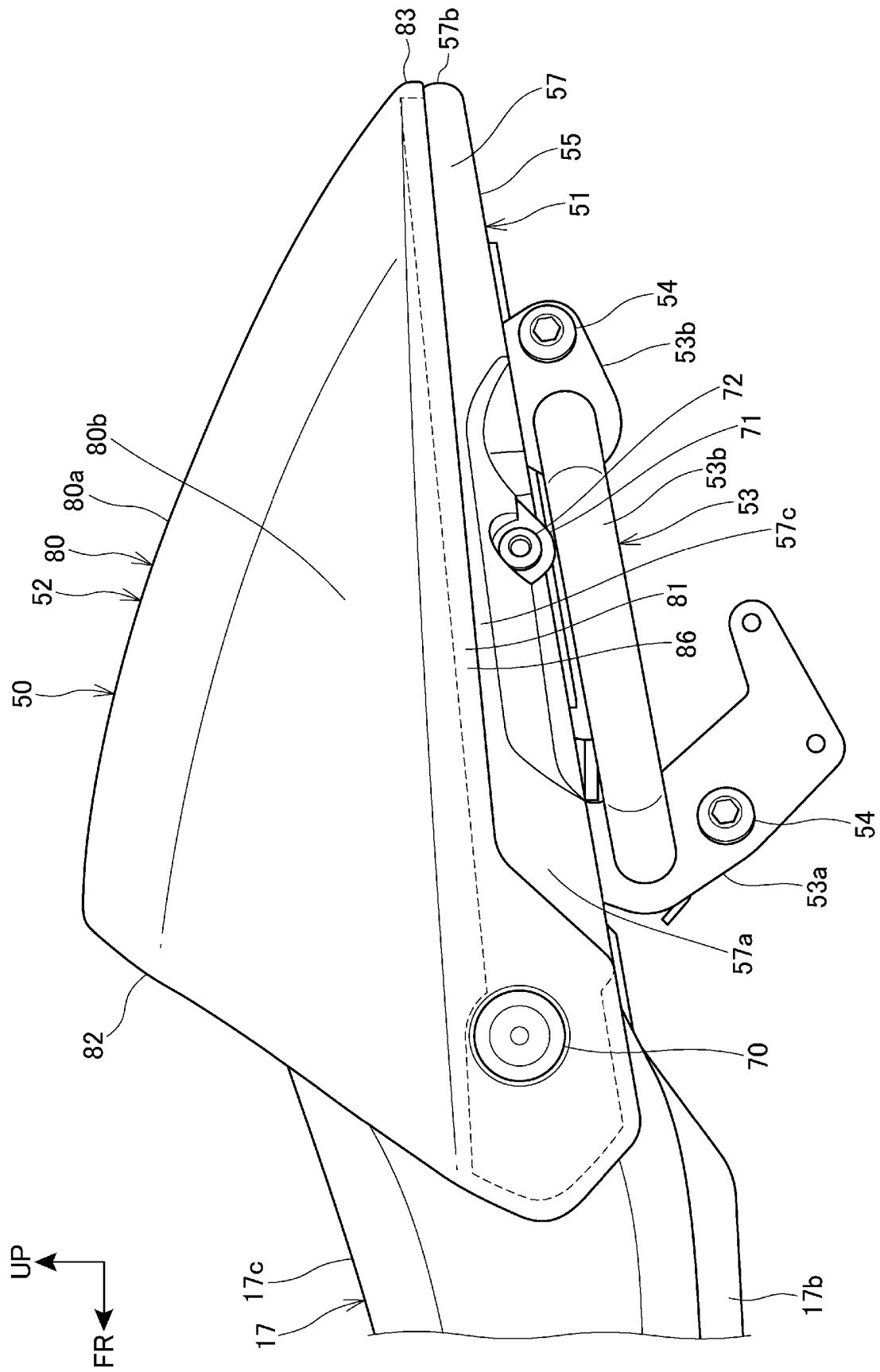
[図1]



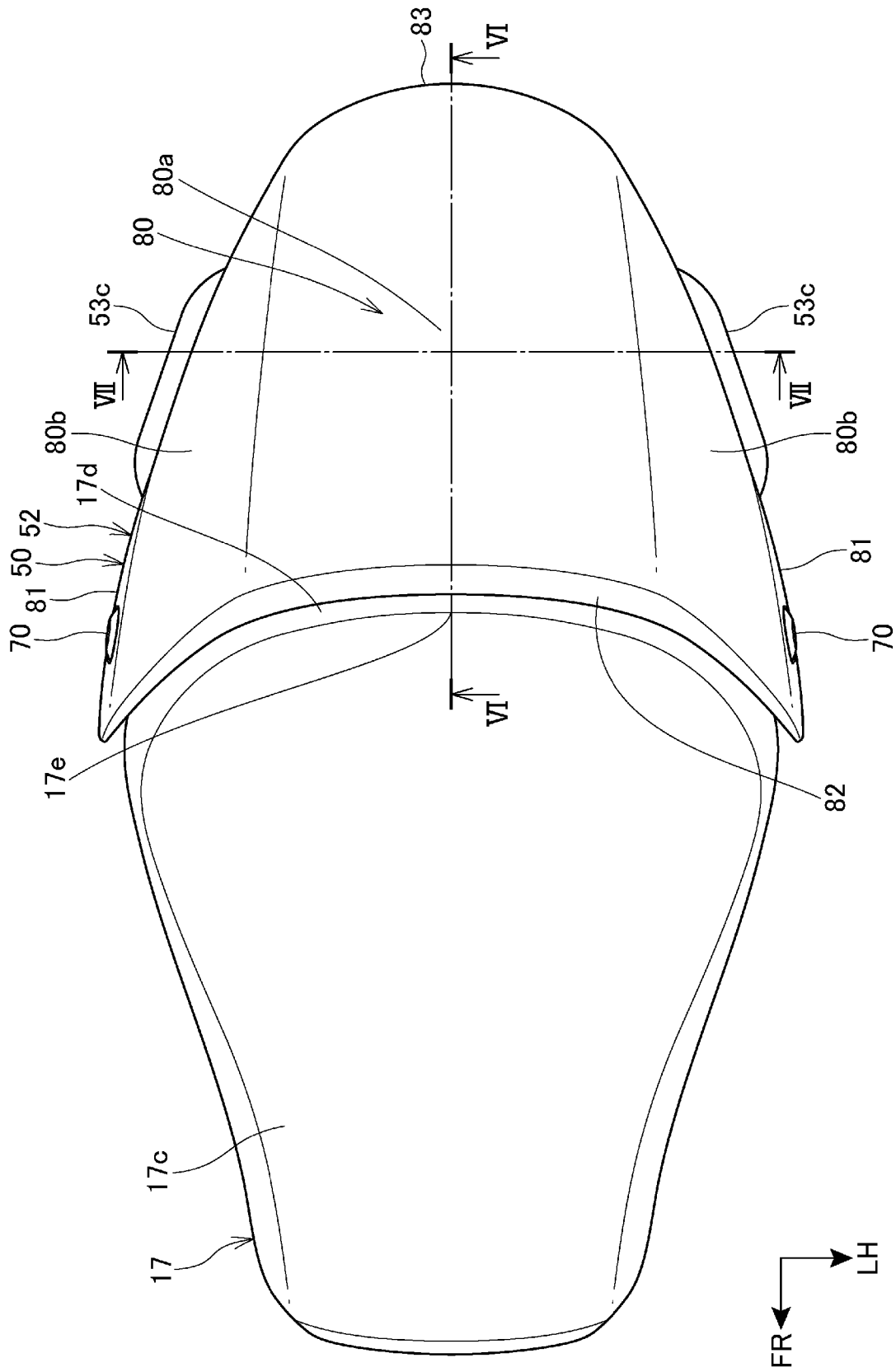
[図2]



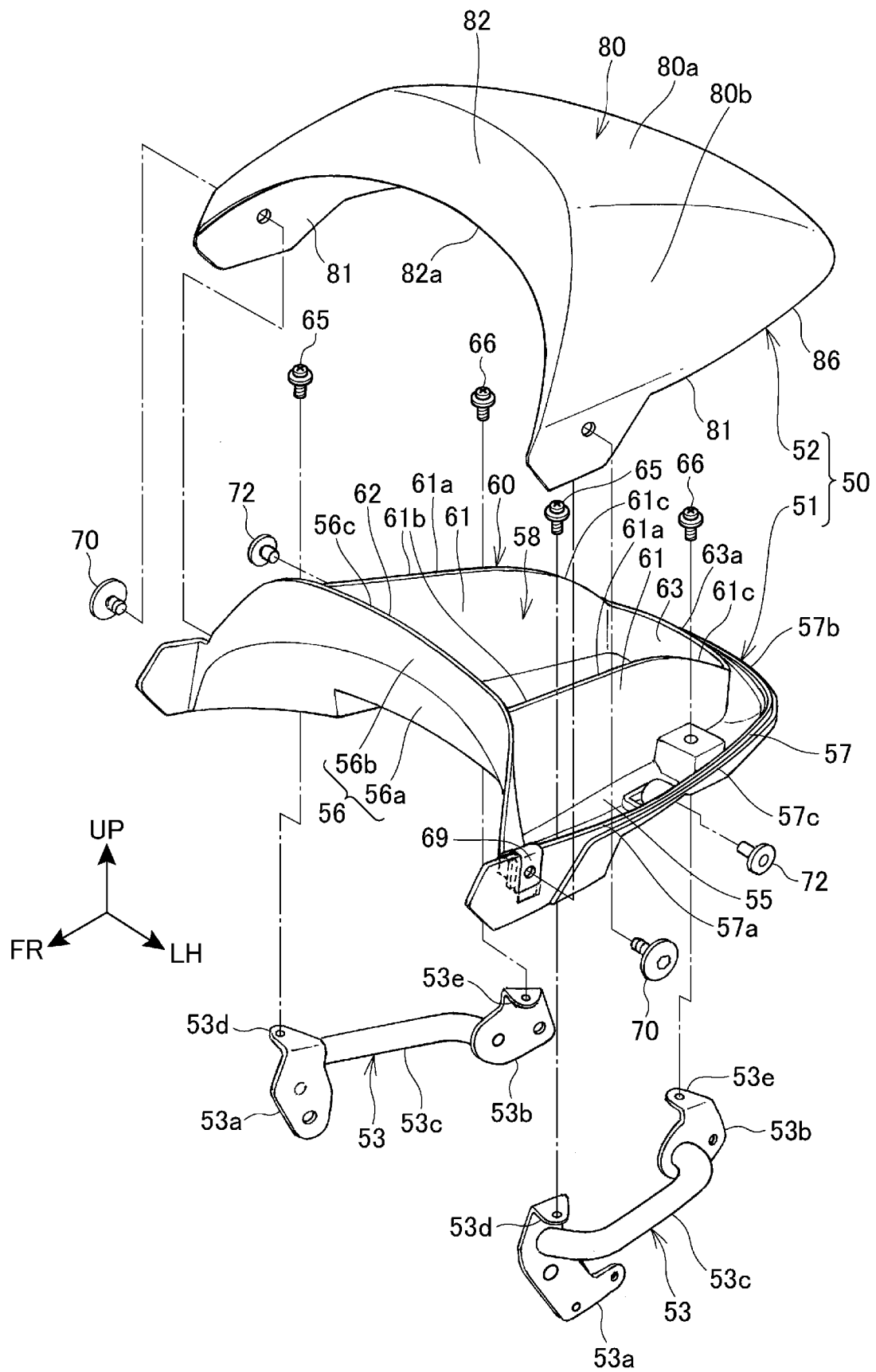
[図3]



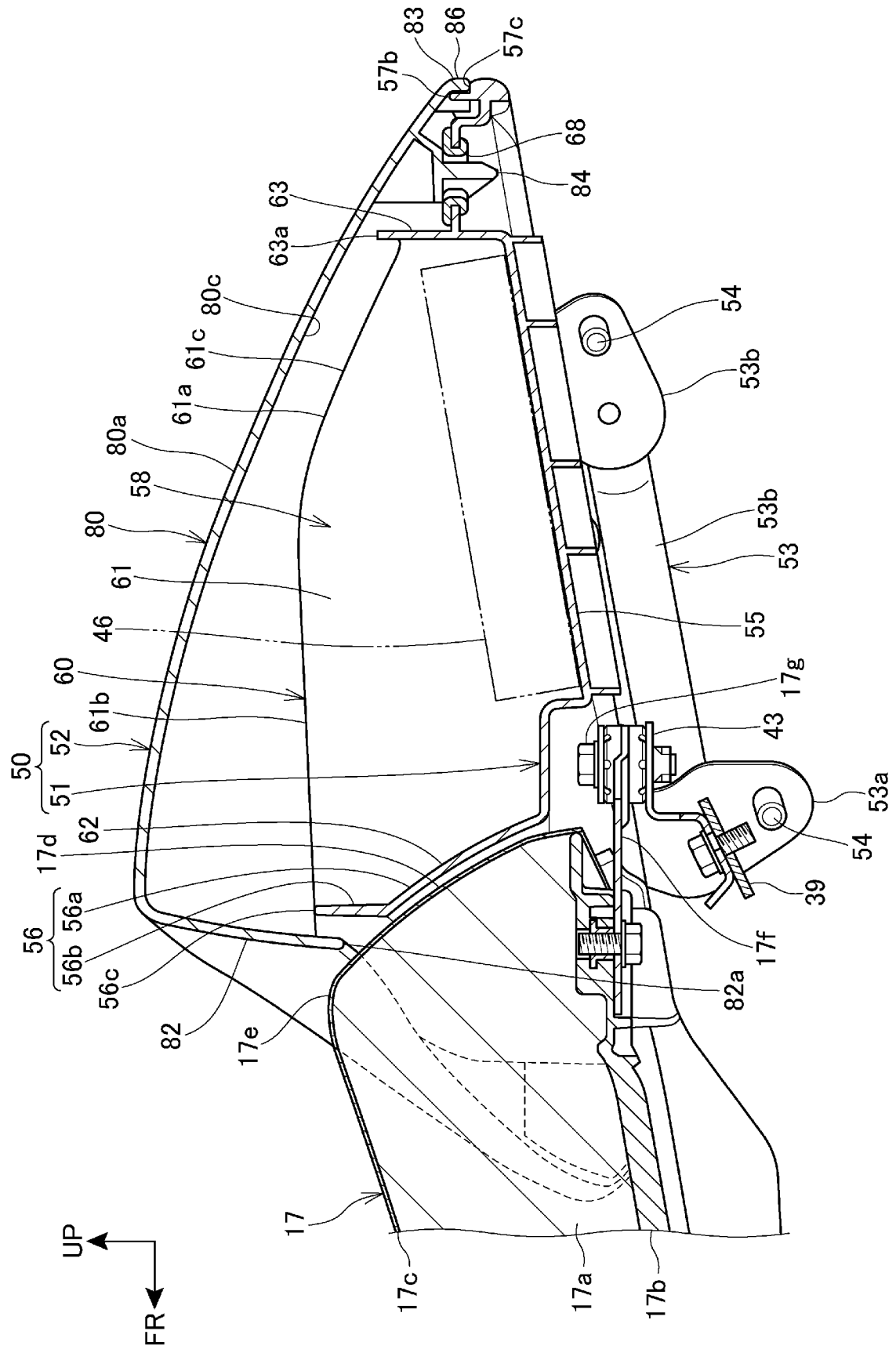
[図4]



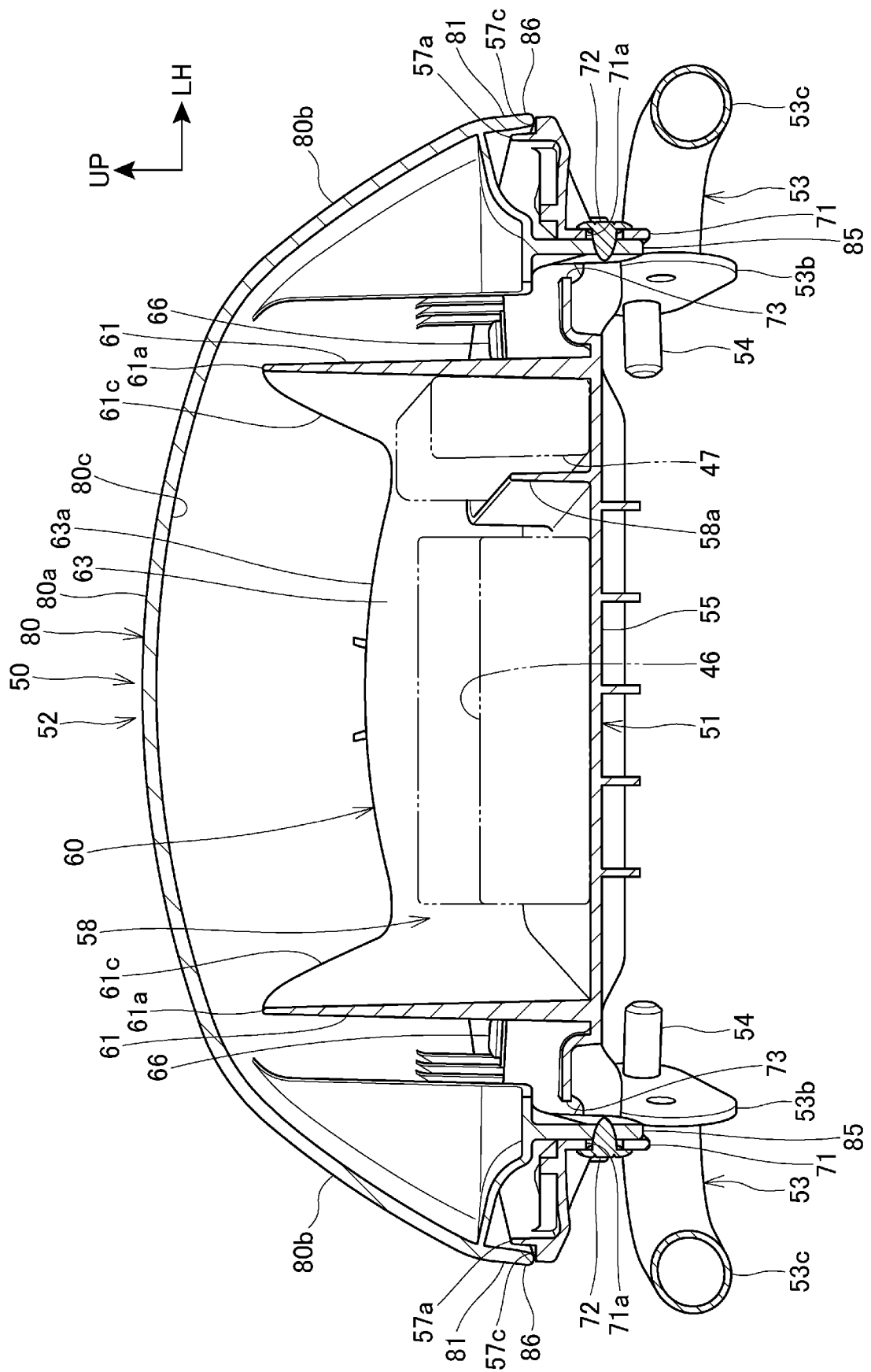
[図5]



[図6]



[図7]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2022/032619

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**B62J 9/10**(2020.01)i; **B62J 17/00**(2020.01)i; **B62J 23/00**(2006.01)i

FI: B62J9/10; B62J23/00 F; B62J17/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B62J9/10; B62J17/00; B62J23/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022
 Registered utility model specifications of Japan 1996-2022
 Published registered utility model applications of Japan 1994-2022

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 57-95278 A (HONDA GIKEN KOGYO KK) 14 June 1982 (1982-06-14) page 1, lower right column, line 10 to page 3, upper right column, line 15, fig. 1-4	1-9
A	JP 7-47985 A (YAMAHA MOTOR CO., LTD.) 21 February 1995 (1995-02-21) paragraphs [0010]-[0029], fig. 1-5	1-9
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 120556/1985 (Laid-open No. 28684/1987) (SUZUKI MOTOR CO., LTD.) 21 February 1987 (1987-02-21), specification, page 2, line 12 to page 4, line 17, fig. 1, 2	1-9
A	JP 2019-99116 A (KAWASAKI HEAVY IND., LTD.) 24 June 2019 (2019-06-24) paragraphs [0012]-[0112], fig. 1-6	1-9
A	JP 2010-64624 A (HONDA GIKEN KOGYO KK) 25 March 2010 (2010-03-25) paragraphs [0016]-[0044], fig. 1-7	1-9
A	KR 10-2004-0105988 A (DAELIM MOTOR CO., LTD.) 17 December 2004 (2004-12-17) page 3, lines 9-39	1-9



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date
 “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 “&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

02 November 2022

Date of mailing of the international search report

15 November 2022

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)
 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915
 Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2022/032619

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	57-95278	A	14 June 1982	(Family: none)	
JP	7-47985	A	21 February 1995	(Family: none)	
JP	62-28684	U1	21 February 1987	(Family: none)	
JP	2019-99116	A	24 June 2019	US 2019/0176924 A1 paragraphs [0017]-[0117], fig. 1-6	
JP	2010-64624	A	25 March 2010	US 2010/0061058 A1 paragraphs [0028]-[0055], fig. 1-7	
				DE 102009029747 A1	
KR	10-2004-0105988	A	17 December 2004	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） B62J 9/10(2020.01)i; B62J 17/00(2020.01)i; B62J 23/00(2006.01)i FI: B62J9/10; B62J23/00 F; B62J17/00										
B. 調査を行った分野										
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） B62J9/10; B62J17/00; B62J23/00										
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2022年</td> </tr> </table>			日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2022年	日本国実用新案登録公報	1996-2022年	日本国登録実用新案公報	1994-2022年
日本国実用新案公報	1922-1996年									
日本国公開実用新案公報	1971-2022年									
日本国実用新案登録公報	1996-2022年									
日本国登録実用新案公報	1994-2022年									
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）										
C. 関連すると認められる文献										
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号								
A	JP 57-95278 A（本田技研工業株式会社）14.06.1982（1982-06-14） 第1ページ右下欄第10行-第3ページ右上欄第15行, [図1]-[図4]	1-9								
A	JP 7-47985 A（ヤマハ発動機株式会社）21.02.1995（1995-02-21） 段落[0010]-[0029], [図1]-[図5]	1-9								
A	日本国実用新案登録出願60-120556号（日本国実用新案登録出願公開62-28684号）の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（鈴木自動車工業株式会社）21.02.1987（1987-02-21）明細書第2ページ第12行-第4ページ第17行, [図1]-[図2]	1-9								
A	JP 2019-99116 A（川崎重工業株式会社）24.06.2019（2019-06-24） 段落[0012]-[0112], [図1]-[図6]	1-9								
A	JP 2010-64624 A（本田技研工業株式会社）25.03.2010（2010-03-25） 段落[0016]-[0044], [図1]-[図7]	1-9								
A	KR 10-2004-0105988 A（DAELIM MOTOR CO., LTD.）17.12.2004（2004-12-17） 第3ページ第9行-第39行	1-9								
☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。										
<table border="0"> <tr> <td> * 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 </td> <td> “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献 </td> </tr> </table>			* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献						
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献									
国際調査を完了した日 02.11.2022	国際調査報告の発送日 15.11.2022									
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 中川 隆司 3D 8509 電話番号 03-3581-1101 内線 3339									

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2022/032619

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	57-95278	A	14.06.1982	(ファミリーなし)	
JP	7-47985	A	21.02.1995	(ファミリーなし)	
JP	62-28684	U1	21.02.1987	(ファミリーなし)	
JP	2019-99116	A	24.06.2019	US 2019/0176924 A1 段落[0017]-[0117], [図1]- [図6]	
JP	2010-64624	A	25.03.2010	US 2010/0061058 A1 段落[0028]-[0055], [図1]- [図7] DE 102009029747 A1	
KR	10-2004-0105988	A	17.12.2004	(ファミリーなし)	